

16)

著者：高橋光一，小森弘詞，松永勝也

論文題目：安全運転態度と事故率の傾向について

論文集名：日本交通心理士会第5回中国・四国・九州地区研究発表会発表論文集

発表年月：2013（平成25）年7月

頁：11-14

安全運転態度と事故率の傾向について

高橋光一・小森弘詞・松永勝也

(アイルモータースクール下関)

1. 目的

以前から安全運転態度の良質な運転者は事故率が低く、安全運転態度の悪質な運転者は事故率が高いと感じていた。これを仮説として検証すべく質問紙調査を実施することとした。その結果は、講習等において個々人の指導に反映させていきたいと考える。

2. 方法

質問紙調査の内容は、性別・年齢・生年月・事故歴（過去 10 年間）・1 週間当たりの運転頻度・1 週間当たりの走行距離・初めての運転免許取得年・免許の種類、さらに、24 の質問項目（表 1 参照）であった。さらに、質問紙調査をアイルモータースクールに来校した運転免許所持者について無作為に実施した（合計 104 名に実施）。回答は講習や教習終了後、休憩時間を利用して行ってもらった。

選択肢は、次の通りとした。質問 1~16 に対して：1) よくある、2) 時々ある、3) あまりない、4) ほとんどない、5) ない。質問 17 に対して：1) かなり賛成、2) 少し賛成、3) どちらでもない、4) 少し反対、5) かなり反対。質問 18 に対して：1) 必ずしている、2) 一時停止していることが多い、3) 一時停止と徐行が半々くらい、4) 一時停止することはあまりない、5) ほとんどない。質問 19・20 に対して：1) ある、2) 少しある、3) どちらでもない、4) あまりない、5) ない。質問 21 に対して：1) いつも十分保持している、2) 時々十分でないときがある、3) どちらでもない、4) 十分で

ないときが多い、5) いつも不十分。質問 22 に対して：1) かなり荒い、2) 少し荒い、3) どちらでもない、4) ややおとなしい、5) かなりおとなしい。質問 23・24 に対して：1) ある、2) 時々ある、3) どちらでもない、4) あまりない、5) ない。

表 1. 質問文。

安全運転態度テスト 質問24項目	
質問 1	発進したり、車線変更したり、右左折する際、人や障害物に気づくのが遅れヒヤッとすることがある。
質問 2	夜遅くや早朝など交通量が少ない場合には、制限速度を無視して高い速度で走行することがある。
質問 3	片側一車線の道路でゆくりと運転する車の後についていた場合、はみ出し禁止の区間であっても、交通量の少ないところでは追い越す。
質問 4	バックするとき、衝突して初めて障害物の存在に気づいたことがある。
質問 5	カーナビを見たり、ラジオのチャンネルを変えていて、ヒヤッとすることがある。
質問 6	狭い道や障害物のある道で、自分が先に行こうとして、対向車に道を譲らせたことがある。
質問 7	右折で回頭りをする 경우가あり、対向車にヒヤッとすることがある。
質問 8	駐車場で他の車や柱、壁などの構造物に衝突・接触をさせたことがある。
質問 9	法定速度よりも速く走り回って運転したことがある。
質問 10	前の車よりもとまるとなるように、または速くよかに促すために、前の車に接触したりパッシングライトを点滅させたことがある。
質問 11	歩道等に切り替わった時には速度を下げ、交通音を聞いたことがある。
質問 12	深夜、交通量の少ない道路で運転しているときに信号を無視したことがある。
質問 13	他の運転者の運転が早に激しく、文句を言うか言いかけたことがある。
質問 14	一時停止指定交差点において、徐行で安全確認をし、通行したら、他の車と衝突しそうになり、ヒヤッとすることがある。
質問 15	ほとんど動かない車の列を追い越したところ、道路工事や一車線の道路での信号待ちの車列だったことがある。
質問 16	他の車に追い越されたら、追い越したくなる。
質問 17	レーダーによる速度取り締まりは苛酷と思う。
質問 18	一時停止の標識のあるところでは必ず一時停止して安全確認していますか？
質問 19	事故を起こさずに運転をする自信はありますか？
質問 20	すばい運転操作のできる自信はありますか？
質問 21	いつも十分な車間距離を保持して運転していますか？
質問 22	運転はおとなしい運転ですか？
質問 23	同乗者に運転が荒いと書かれることがありますか？
質問 24	ぼんやりとしていて信号や標識を見落とすことがありますか？

24 項目の質問に対して、5 つの回答肢のうちあてはまる番号を○で囲んでもらった。回答を自由形式にせず、5 者択一式に設定したのは、なるべく被験者の手間を省いて回答時間を短縮し、簡潔にするためであった。

3. 結果

質問紙調査実施人数は 104 名であったが、未回答者が 1 名いた。過去 10 年間の事故歴は 0 件の者 74 名、1 件の者 19 名、2 件の者 8 名、3 件の者 1 名、4 件の者 1 名であった。

74 名を過去 10 年間事故歴無しとし、過去 10 年間で 1 件以上事故を起こした者 29 名を事故歴有りとして検証した。回答結果を表 2、表 3 に示す。

表 2.過去 10 年間無事故歴群の回答結果.

	過去10年間無事故歴無し											
	回答 1		回答 2		回答 3		回答 4		回答 5		合計	
	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)
質問 1	1	1.4%	17	23.3%	18	24.7%	25	34.2%	12	16.4%	73	100.0%
質問 2	3	4.1%	23	31.1%	21	28.4%	18	24.3%	9	12.2%	74	100.1%
質問 3	0	0.0%	4	5.4%	10	13.5%	14	18.9%	46	62.2%	74	100.0%
質問 4	1	1.4%	4	5.5%	8	11.1%	30	41.1%	30	41.1%	73	100.0%
質問 5	1	1.4%	5	6.8%	8	10.8%	19	25.7%	41	55.8%	74	100.1%
質問 6	4	5.5%	12	16.4%	17	23.3%	18	24.7%	22	30.1%	73	100.0%
質問 7	0	0.0%	4	5.5%	13	17.8%	22	30.1%	34	46.6%	73	100.0%
質問 8	1	1.4%	5	6.8%	7	9.5%	25	33.8%	36	48.6%	74	100.1%
質問 9	11	15.1%	35	47.9%	15	20.6%	7	9.6%	5	6.9%	73	100.1%
質問 10	0	0.0%	4	5.4%	4	5.4%	22	29.7%	44	59.5%	74	100.0%
質問 11	2	2.7%	25	33.8%	17	23.0%	15	20.3%	15	20.3%	74	100.1%
質問 12	1	1.4%	5	6.7%	5	6.7%	13	17.6%	50	67.6%	74	100.0%
質問 13	0	0.0%	0	0.0%	5	7.1%	9	12.9%	56	80.0%	70	100.0%
質問 14	0	0.0%	3	4.3%	6	8.6%	21	30.0%	40	57.0%	70	99.9%
質問 15	0	0.0%	3	4.4%	8	11.6%	13	18.8%	45	65.2%	69	100.0%
質問 16	0	0.0%	3	4.3%	6	8.6%	16	22.9%	45	64.3%	70	100.1%
質問 17	8	11.6%	4	5.8%	34	49.3%	12	17.4%	11	15.9%	69	100.0%
質問 18	50	72.5%	12	17.4%	8	11.6%	1	1.4%	0	0.0%	69	100.0%
質問 19	20	28.6%	24	34.3%	15	21.4%	8	11.4%	3	4.3%	70	100.0%
質問 20	13	18.6%	20	28.6%	20	28.6%	13	18.6%	4	5.7%	70	100.1%
質問 21	34	48.6%	32	45.7%	4	5.7%	0	0.0%	0	0.0%	70	100.0%
質問 22	1	1.4%	7	10.0%	28	40.0%	20	28.6%	14	20.0%	70	100.0%
質問 23	0	0.0%	6	8.7%	11	15.9%	18	26.1%	34	49.3%	69	100.0%
質問 24	0	0.0%	8	11.4%	6	8.6%	35	50.0%	21	30.0%	70	100.0%

表 3.過去 10 年間有事故歴群の回答結果.

	過去10年間有事故歴有り											
	回答 1		回答 2		回答 3		回答 4		回答 5		合計	
	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)	(人数)	(%)
質問 1	0	0.0%	8	27.6%	11	37.9%	8	27.6%	2	6.9%	29	100.0%
質問 2	2	6.9%	8	27.6%	7	24.1%	8	27.6%	4	14.3%	29	100.0%
質問 3	0	0.0%	3	10.4%	2	6.9%	9	31.0%	15	51.7%	29	100.0%
質問 4	0	0.0%	3	10.7%	7	25.0%	11	39.3%	7	25.0%	28	100.0%
質問 5	0	0.0%	2	6.9%	5	17.2%	9	31.0%	13	44.8%	29	99.9%
質問 6	1	3.5%	6	20.7%	3	10.4%	12	41.4%	7	24.1%	29	100.1%
質問 7	0	0.0%	0	0.0%	9	31.0%	7	24.1%	13	44.8%	29	99.9%
質問 8	0	0.0%	2	6.9%	6	20.7%	9	31.0%	12	41.4%	29	100.0%
質問 9	9	31.0%	10	34.5%	7	24.1%	2	6.9%	1	3.5%	29	100.0%
質問 10	0	0.0%	1	3.6%	2	7.1%	7	25.0%	18	64.3%	28	100.0%
質問 11	1	3.6%	11	39.3%	5	17.9%	7	25.0%	4	14.3%	28	100.1%
質問 12	0	0.0%	1	3.6%	1	3.6%	10	35.7%	16	57.1%	28	100.0%
質問 13	0	0.0%	0	0.0%	2	7.1%	7	25.0%	19	67.9%	28	100.0%
質問 14	0	0.0%	1	3.6%	4	14.3%	9	32.1%	14	50.0%	28	100.0%
質問 15	0	0.0%	1	3.6%	1	3.6%	7	25.0%	19	67.9%	28	100.1%
質問 16	0	0.0%	1	3.6%	2	7.1%	11	39.3%	14	50.0%	28	100.0%
質問 17	2	7.1%	1	3.6%	19	67.9%	4	14.3%	2	7.1%	28	100.0%
質問 18	21	77.8%	5	18.5%	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	27	100.0%
質問 19	3	10.7%	8	28.6%	7	25.0%	8	28.6%	2	7.1%	28	100.0%
質問 20	1	3.6%	8	28.6%	12	42.9%	5	10.7%	4	14.3%	28	100.1%
質問 21	11	41.0%	12	44.4%	3	11.1%	0	0.0%	1	3.6%	27	100.1%
質問 22	0	0.0%	4	14.8%	12	44.4%	6	22.2%	5	18.5%	27	99.9%
質問 23	0	0.0%	2	7.4%	6	22.2%	9	33.3%	10	37.0%	27	99.9%
質問 24	0	0.0%	5	18.5%	3	11.1%	12	44.4%	7	25.9%	27	99.9%

質問 1~16 の「1.よくある」+「2.時々ある」を事故率が高いとし、「4.ほとんどない」+「5.ない」を事故率が低いとした。

質問 17 の「1.かなり賛成」+「2.少し賛成」を事故率が高いとし、「4.少し反対」+「5.かなり反対」を事故率が低いとした。

質問 18 の「1.必ずしている」+「2.一時停止していることが多い」を事故率が低いとし、「4.一時停止することはあまりない」+「5.ほとんどない」を事故率が高いとした。

質問 19・20 の「1.ある」+「2.少しある」を事故率が低いとし、「4.あまりない」+「5.ない」を事故率が高いとした。

質問 21 の「1.いつも十分保持している」

+「2.時々十分でない時がある」を事故率が低いとし、「4.十分でない時が多い」+「5.いつも不十分」を事故率が高いとした。

質問 22 の「1.かなり荒い」+「2.少し荒い」を事故率が高いとし、「4.ややおとなしい」+「5.かなりおとなしい」を事故率が低いとした。

質問 23・24 の「1.ある」+「2.時々ある」を事故率が高いとし、「4.あまりない」+「5.ない」を事故率が低いとした。

過去 10 年間事故歴有りと、過去 10 年間事故歴無しを比較した結果、質問 1・4・8・17・19・20 の項目で 10% (1 割) 以上の差があることが判明した(図 1・図 2・図 3・図 4・図 5・図 6 を参照)。

質問 1 (発進したり、車線変更したり、右左折する際、人や障害物に気づくのが遅れヒヤッとすることがある) では、「4.ほとんどない」+「5.ない」が、事故歴有りにおいて 34.5% の選択、事故歴無しにおいては 50.6% の選択であった。

質問 4 (バックするとき、衝突して初めて障害物の存在に気づいたことがある) では、「4.ほとんどない」+「5.ない」が、事故歴有りにおいては 64.3%、事故歴無しにおいては 82.2% の選択であった。

質問 8 (駐車場で他の車や杭、塀などの構造物に衝突・接触をさせたことがある) では、「4.ほとんどない」+「5.ない」が、事故歴有りでは 72.4%、事故歴無しでは 82.4% の選択であった。

質問 17 (レーダーによる速度取り締まりは卑怯と思う) では、「4.少し反対」+「5.かなり反対」が、事故歴有りでは 21.4%、事故歴無しでは 33.3% の選択であった。

質問 19 (事故を起こさないで運転をする

自信はありますか?)では、「1.ある」+「2.少しある」が、事故歴有りにおいては、39.3%、事故歴無しにおいては、62.9%の選択であった。さらに、「4.あまりない」+「5.ない」が、事故歴有りにおいては、35.7%、事故歴無しにおいては、15.7%の選択であった。

質問 20 (素早い運転操作のできる自信はありますか?)では、「1.ある」+「2.少しある」が、事故歴有りにおいては、32.2%、事故歴無しにおいては、47.2%の選択であった。

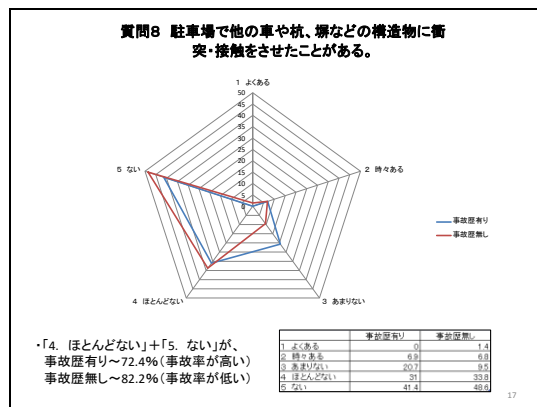


図 3. 質問 8 への回答結果.

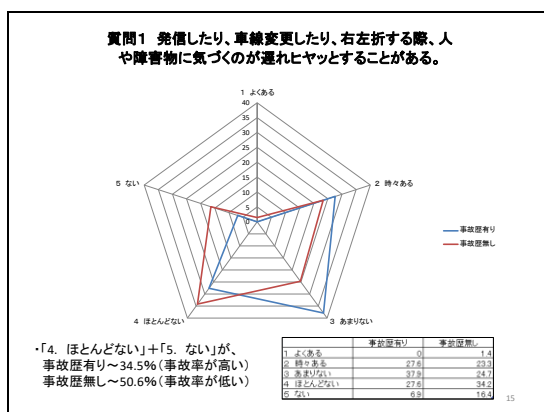


図 1. 質問 1 への回答結果.

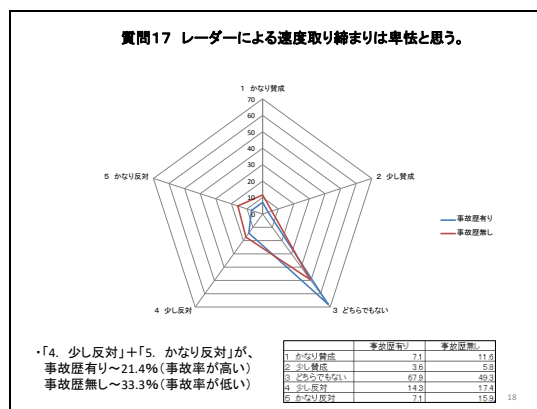


図 4. 質問 17 への回答結果.

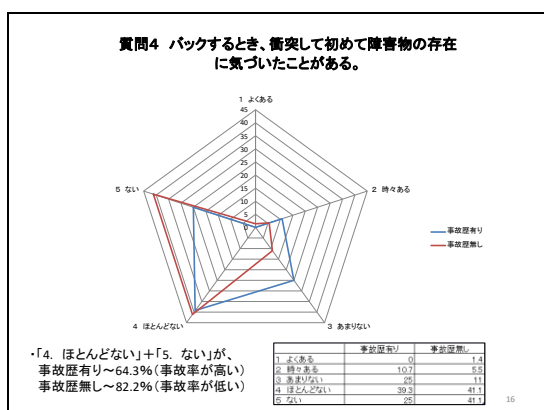


図 2. 質問 4 への回答結果.

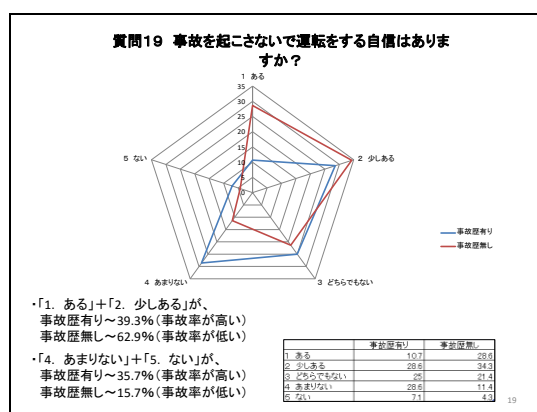


図 5. 質問 19 への回答結果.

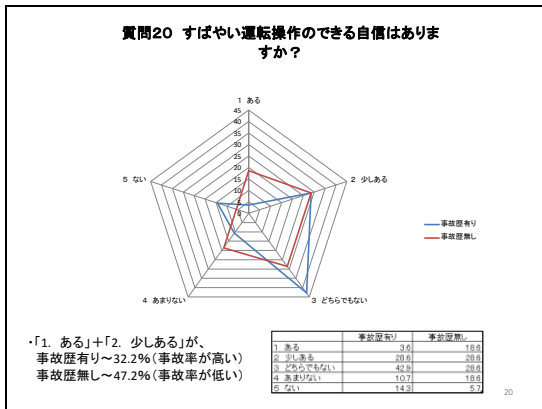


図 6. 質問 20 への回答結果.

4. 考察

24 項目の質問紙調査のうち、21 項目の質問に対しては両群の回答に大きな差異はみられなかった。しかし、大きな差異が見られた項目では、いずれも事故歴有りのほうが安全運転態度は低い。よって、事故歴無しのほうが安全運転態度は良好であるのではないかと考えられた。今回は 104 名の被験者で実施したが、今後さらに多くの被験者を集めて実施し、資料を収集したいと考えている。

質問紙調査の実施方法では、性別や年齢、免許取得年等の記入漏れがあるばかりか、質問に対する回答の記入漏れも見られた。これは、教習や講習終了後の質問紙調査実施により、被験者が緊張や疲労等で集中力が欠如していたとも考えられる。

よって、今後の質問紙調査では、被験者の回答時間や質問紙調査項目もより深く考えて、実施時期を考慮しなければならないと感じた。資料をたくさん収集するために被験者に対する配慮を欠くようなことがあってはいけなとを考えさせられた。次回、安全運転態度テストを実施するときには、性別・年齢・事故歴（過去 10 年間）・1 週

間当たりの運転頻度・走行距離のみとして短縮し、質問項目も 16 項目とすることにした。質問項目は以下のとおりで実施したいと考えている。

今後は、質問項目 1～16 に対して、回答を同一にして実施する。回答の選択肢は、「1) よくある 2) 時々ある 3) あまりない 4) ほとんどない 5) ない」として、被験者の負担をなるべく少なくなるように簡潔にする。回答は教習・講習終了後、休憩時間だけに限定せず、任意で回答が終了したら提出するようにしたいと考えている。

参考文献

[1] 駒田悠一・木村貴彦・篠原一光・三浦利章：運転行動の自己報告に基づく運転スタイルの評価. 大阪大学大学院人間科学研究科紀要 34 : 189-214, (2008).